

## 8-4-36 環境配慮専門委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 環境配慮専門委員会の開催

専門委員会は 12 回開催した（面談及び Web 併用方式 8 回、Web 方式 4 回）。

#### (2) マネジメントセミナーへの講演

令和 4 年 9 月 28 日に開催されたセミナーでは、「環境配慮経営の実践に向けて～カーボンニュートラル、グリーンインフラ、SDGs へのチャレンジ～」と題して、国の政策動向や企業へのアンケート及びヒアリング結果、講演会や視察などによる先進事例をもとに、目指すべき考え方や方向を以下のとおり説明した。

「業務における環境配慮」では、カーボンニュートラル、グリーンインフラ、SDGs への取り組みにおいて、環境、社会、経済を両立させるための調査、計画、設計、維持管理に係る技術によって地域の課題を解決する。

「社会貢献活動、企業価値向上」では、環境の側面から企業価値や地域への貢献を高めていくために、地球温暖化対策や気候変動への対応、SDGs の活用、環境配慮の実現などに向けたマネジメント力を発揮していく。

「持続可能な事業展開」では、建設コンサルタントが得意とする環境配慮に関連する調査・計画・設計・維持管理技術を活かして、カーボンニュートラルやグリーンインフラに関する事業化や事業運営に関する合意形成や分野横断的な連携体制の構築を支援する。

<環境配慮経営へのアプローチ 10 の提言>

企業活動では、①受託業務への環境配慮の取り組みが環境配慮経営の基本となる、②新規事業や企業価値向上に向けた自主事業の取り組みを推進する、③企業において自律的にマネジメントシステムを運用（SDGs、ISO 等）する。

カーボンニュートラルでは、④組織横断的な情報収集・分析能力の向上、⑤シーズ（自社のノウハウ、技術）とニーズの適合を進める、⑥自治体、関係機関との連携機会を拡大していく

ことがポイントになる。

グリーンインフラなど新たな環境配慮技術の展開では、⑦優位性を持つ技術分野の技術力向上（イノベーションへの対応）、マネジメント技術の向上、将来ニーズの的確な把握による技術力の向上、⑧人材育成では、社会・経済に寄与する環境配慮を提案する意識の向上、総合的な技術力をもった人材を育成していくこと、⑨街路樹は、調査・計画・設計・施工・維持管理といったライフサイクルでの環境配慮が必要なこと、⑩施設管理者・市民・事業者などの連携をコンサルタントが支援することで、グリーンインフラの価値を向上する。

#### (3) 環境配慮経営に関するアンケートの実施

会員企業を対象として、令和 4 年 11 月にアンケート調査を実施し、環境配慮経営への取り組み状況や、SDGs、グリーンインフラ及びカーボンニュートラルなどに取り組んでいる、具体的な内容について、127 社から回答を得た。

#### (4) 講演会の開催

令和 5 年 1 月 19 日に「建設コンサルタントのカーボンニュートラルへの取り組みに向けて」と題して、Web 配信による講演会を開催した。

（株）浜松新電力の北村武之事業部長より「浜松市における地域新電力事業への取り組みと今後の展望」、（一社）日本風力発電協会の上田悦紀部長より「洋上風力発電に係る国内外の事情と今後の展望」のお話を伺った。154 名の聴講者から多くの意見が寄せられた。

### 2. 次年度の活動について

- (1) SDGs、グリーンインフラやカーボンニュートラルに関する動向、建設コンサルタントの取り組み状況や課題を整理して、マネジメントセミナーで情報を提供する。
- (2) 会員企業の環境配慮経営（サステナビリティ経営）の実態を把握し、セミナーで紹介する。
- (3) 環境に配慮した業務の実施例、持続可能な事業展開、地域貢献や企業価値向上などに関するテーマで講演会を開催する。

（環境配慮専門委員会委員長 荒川 仁）